



発行所 カトリック長崎大司教区広報委員会
下 岸 英 知
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095(843)3869 FAX 095(843)3417
郵便振替番号 018 80-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所 株式会社 藤 木 博 英 社
〒850-0852 長崎市万屋町5-13
TEL 095(821)2146 FAX 095(821)2148



司祭・助祭叙階式 喜びと感謝の歌響く



高見三司 大司教
教は2月26日
(日)、カトリック
司祭に、小島 明(浜脇)

【写真】上段右・ご聖体を授ける大司教新司祭/上段真ん中・お祝いの花束を抱える小島新助祭/上段左・放たれた鳩を奉迎する中野新助祭

小教区出身・中野健一郎(本原小教区出身)両神学生を助祭に叙階した。午後3時からの叙階式に先立って、曾根小教区主任司祭鶴巻健二師が講話を行い、自身の叙階式の経験振り返りながら、多くの人々の祈りと支えと励ましによって1人の司祭が誕生することを説き、そのことを忘れないようにと受階者たちを諭した。

(1)家庭での祈り
わたしたちは、祈りを始めるとき、十字を切りながら「父と子と聖霊のみ名によって、アーメン」と唱えます。これは、「愛である唯一の神を信じます」

1 祈り — キリストと交わる
キリストと出会う喜びを味わうために、まず祈りが必要です。祈りは、単なる義務ではなく、信仰の心を表すと同時に養う信仰の行いです。問題は「祈り方」です。

「信仰年」開催を告示する自発教令「信仰の門」を参照しながら、表題について考え、信仰の在り方を問い直したいと思えます。なお、信仰は、「信じる行為あるいは心」と同時に「信仰の内容」つまり「信ずべきこと」を意味します。



と告白することと同じです。夫婦、親子、兄弟、友達、恋人が互いに語り合うことは交わりです。祈りも、神さまやマリアさま、特に人となつて神の愛を示してくださったキリストに親しく語り掛け、交わることです。これは、どんな祈りについてもいえます。ただし、人との対話がそうであるように、心のこもった誠実なものでなければなりません。

「信仰は信じることによって成長し、強められる」 大司教 ヨセフ 高見 三 明

司祭は信徒に影響を与えます。司式するとき、すべての祈りを、はっきり、ゆっくり、大きな声で、心を込めて丁寧唱え、しぐさは信心深く行うようににしましょう。

人事異動・任命 4月
(一) 内は前任地。
▼教区(4月22日着任、*1は4月15日着任、*2は4月1日着任)
古川 武信師 病氣療養(三ツ山教会主任)
高野 治師 宝亀教会主任(大分教区・大分教会主任)
大水 文隆師 三ツ山教会主任、広報委員長(宝亀教会主任)
辻原 達也師 奈留教会主任(長崎コレジオ副院長)
山本 一郎師 長崎コレジオ副院長(早岐教会主任)
葛島 輝義師 福江小教区協働司祭・浜脇教会担当(井持浦教会主任)
本田 靖彦師 早岐教会主任(奈留教会主任)

日本カトリック神学院 新院長に白浜 満師
日本カトリック神学院が2012年4月1日付でカトリック中央協議会

努力してください。聖書を個人で読み、グループで分かち合うときもそうですが、特に典礼で朗読される時、神ご自身がその民に語られ、キリストはご自身のことばのうちに現存して福音を告げられます。ですから、会衆は尊敬をもってこれを聞かなければなりません。また、司祭も含めて、朗読の務めを果たす人は、会衆が神のことばの朗読を聞いて心地よい生き生きとした感動を覚えるよう、よく準備し、会衆に伝えるという気持ちで、大きな声で、ゆっくり、はっきり読む努力をしていただきたいと思います。

3 生きる — キリストを証しする
信仰は愛の行いと共に働き、愛の行いによって完成されます(ヤコブ2:22参照)。長崎の教会は、「新しい福音宣教」に新たな熱意をもって強力に取り組むために、祈りによって表し養う信仰を生きる力とし、「信ずべきこと」を学んで生活に生かし、何よりも互いが信頼のきずなで結ばれ愛によって交わるようにならなければなりません。キリストの愛を日々再発見することにより、愛をいただく経験として信仰を生きるとき、信仰の喜びを感じることでしよう。そして、この信仰が互いの信頼と愛の交わりとして現れるとき、それを恵みと喜びの経験として周囲の人々に伝えていくことができます。

2 学び — キリストを知る
信仰の心は、「信ずべきこと」をより正確に知り、自分のものにしようとしています。すると信仰はさらに深くなります。「カトリック教会のカテキズム」は、「信仰の力と素晴らしさ」を示し、「信仰を教えるための確実な規範」です。「カトリック教会のカテキズム要約」と日本の教会独自の『カトリック教会の教え』もあります。また第2バチカン公会議の公文書は、わたしたちにこれからの「歩みの方向性を与える確実な羅針盤」です。ですから、これを学び、消化吸収する必要があります。これら要理書や公文書を学ぶことによって、「キリストについて」知る以上に「キリストご自身を」より深く知ることになります。

聖週間と共に新年度が始まった。個人的にも、家庭や教会においても、新たなスタート台に立つ人が多いことだろう。何はともあれ、スタート台に立てたことは喜ばしいことだ。毎年この時期は不安と希望が交錯するが、「例年通り」という当たり前のことがどんなにかけがえのないものであるか、この1年ほど痛感させられたことはない。▲日常が日常でなくなり、当たり前が当たり前でなくなった3・11の出来事。非日常を過ごさざるを得ない被災者たち。いまだ避難者34万人以上という報道に心が痛む。一刻も早く、新たな生活のスタート台に立てることを祈るほかない。▲すでに岩手県大槌町に長崎教会管区のボランティアベースが立ち上がり、被災地と九州をつないでいる。さらに、今年度からは長崎教区司祭が仙台教区宮古教会(岩手県)に主任司祭として派遣されることになった。▲被災者のために何ができるかということも大事だが、まずは、わたしたちが被災地とつながっていること、心を通わせていることが重要だ。▲これを機に、多くの人に被災地を訪れてほしいと期待する。何かができなくても、遠い九州から来たという事実、被災地に関心を寄せている事実を伝えるだけでも意味がある。▲日常を過ごせることに感謝し、日常を奪われた人に寄り添い、すべての人が人間の尊厳にふさわしい生活ができるように、復活の主を信頼して、それぞれの使命を果たしていきたいものだ。(S)

日本二十六聖人殉教者列聖150周年 記念事業に関して承認

—2011年度臨時司教総会

2月13日から16日まで、2011年度臨時司教総会がカトリック中央協議会(東京)で行われ、その中で日本二十六聖人殉教者列聖150周年記念事業に関するいくつかの事項が承認された。高見三明大司教によると承認されたのは次の内容。

1、長崎教区西坂巡礼所(2002年4月16日付で

島本大司教認可)が、日本カトリック司教協議会認可の「日本カトリック長崎・西坂巡礼所」となる。国内外に知らせる必要がある。上記臨時司教総会で承認された同規則は、4月12日の常任司教委員会最終確認される予定である。

3、「日本二十六聖人長崎への道」の巡礼道としての整備と「巡礼マップ」の製作に向けて3年を目標に準備する。

広島・長崎の宗教者集う 平和会議開催(長崎市)



広島宗教者連盟と長崎宗教者懇話会は2月21日から22日にかけて、広島・長崎宗教者平和会議を立正佼成会長崎教会(長崎市)で開催した。参加者は前田万葉広島司教も含め広島7人、高見三明長崎大司教をはじめ長崎

30人。今回は、東日本大震災を受け、津波発生当初から精力的な取材を行ってきた中外日報(宗教関連

記事の全国紙)の北村敏泰記者を招き、宗教者の使命について学んだ。北村記者は、今回の震災に限らず、宗教者はまず人々の苦しみの現場に「行き」、そこでそのいのちに「寄り添う」べきだ、と強調した。さらに、人々が直面しているさまざまな社会的課題についても、宗教者だからと

いつて沈黙するのではなく、宗教者だからこそ自らの考えをもっと提示してほしい、と訴えた。参加者からは「宗教者の本来的な使命を再認識させられた」との声が聞かれた。



浦上教会は小教区評議会の呼び掛けで叙階式当日2月26日の朝から、大水 満新司祭の叙階をお祝いする餅を信者らの手によって準備した。同教会で司祭叙階の恵みを祝う餅つきが行われたのは、長崎市辻町出身の本田靖彦神父の叙階以来9年ぶりとか。大水新司祭は2010年度の1年間、神学生として過ごしながら浦上教会で働きゆかりが深く、小教区あげてこの日の叙階が祝われた。100kg のもち米から約1千人分の紅白の餅を信者らが手際よくこしらえ、叙階式後、参列者に配り喜びを分かち合った。

ふどう園
▼「ゆりの会」したいせつな人を自死でなくされた方の集い
毎月第1水曜日 18時半〜20時半 カトリックセンター
①4月4日(水) ②5月2日(水) 毎月第3水曜日 13時半〜15時半 西坂・聖フィリッポ教会司祭館 ①4月18日(水) ②5月16日(水) 予約・参加費不要。日本CLC主催、教区人権委員会協力
問合せ・鳥巢シオリ
TEL 095(881)2357
TEL 090(9488)7931
▼イエズス会立山修道院お知らせ
●祈りの一日 ①4月16日(月) ②4月21日(土) ③4月25日(水) ④5月7日(月) 10時〜15時半 ●祈りの日々 ①4月5日(聖木曜) ②4月8日(復活の主日) ③4月10日(火) ④4月14日(土) ⑤4月26日(水) ⑥5月2日(水) ⑦5月12日(土) ⑧5月13日(日) 初日17時〜最終日15時
TEL 095(821)4577
TEL 095(821)4577
▼130回クルシヨ 5月3日(木)〜6日(日) イエズス会

立山修道院
問合せ・永山悦子
TEL 095(879)3611
寄付
田川千鶴子様(中町) 右の方からご寄付を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。
長崎カトリック神学院
香典返し
お礼とご報告

長崎大司教区
●長野宏樹様(西町) 故マリアセシリア
長崎カトリック神学院
●木村敏子様(浦上) 故パウロ木村 涼様
●岩下テル子様(福江) 故ヨハネ岩下義男様
●長谷崎利朗様(浦上) 故マリア長谷崎キエ様
右の方々から神学生養成などのために香典返しに代えてご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げますとともに故人のごめい福を心からお祈り申し上げます。

大浦で 信徒発見ミサ



1865年の歴史的出来事を記念する「信徒発見ミサ」が、3月17日(土)夜7時から大浦天主堂で高見三明大司教主司式により行われた。大司教は、信仰の心を伝えていかなければならない—とわたしたちの使命について説き、例年よりも多く集まった参加者は皆、聴き入っていた。

解宗連フィールドワーク



今回の研修は、浦上教会と如己堂、聖フランシスコ・ザベリオ堂跡を巡ってフィールドワークを行った。平和公園や原爆落下中心地、西坂26聖人殉教地なども訪れる予定だったが、途中雨のため中止。その後カ

トリックセンターに戻って阿南氏の解説を聞き、質疑応答があった。参加者からは、「浦上」という土地のもつ歴史的な背景、つまり、浦上が、徳川幕府時代に邪宗とされてきたキリシタンと被差別部落民が住む土地とみなされて軽蔑されてきたこと。近代以降

もカトリックに対する差別や偏見、被差別部落に対する差別が根強く、原爆の被害を受けてからも差別を受け続けたことについて知ることができた」との声が聞かれた。解宗連は毎年研修会を開き、2010年度は永井隆博士の「神の摂理」について研修を深めた。

司祭、司教が共に一つとなつて知恵を出し合い、補い合いながら進んでいくこと、すなわち、教区のことを司教だけが責任者として考えるのではなく、また司祭、修道者だけが考えるのでもなく、信徒の方々と共に一つとなつて考え、進んでいくこと。

第四に、この教区シノドスが話し合いだけに終わることなく具体的な行動が求められること。特に今、種々の問題に直面している教区が、その突破口として具体的な行動を探し実行することが大切となつていま

現在皆さま方にアンケートへの協力を願っていると。第三に、信徒、修道者、司祭、司教が共に一つになるために考えようとするところにある。まず、多くのの方の意見に耳を傾けること、つまり対話は相手の話しに耳を傾けることから始まることを意味しています。

小教区で話されたことをシノドス事務局に集め(4月末日までに提出)それを集計して、再び教区評議会(小教区評議会も含む)で検討していくよう計画されています。



2014年、 教区代表者会議 (教区シノドス) に向けて

教区シノドスについて

シノドス事務局
小瀬良 明

2015年3月17日には信徒発見150周年を迎えることになりました。これを機に長崎教区長高見三明大司教は2011年、年頭教書に教区代表者会議(教区シノドス)を開催することを公言し、決定されました。教区本部事務局はこれを基にシ

ノドス準備委員会を設立し、開催要綱を作成し、事務局を立ち上げることを決定しました。教区シノドスの趣旨には4つの要点が述べられています。

(1) これからの長崎教区をどうするか
(2) 聖霊の導きのもと
(3) 教区全体で考え、知恵を出し合い
(4) 具体的な方向付けを決める
つまり第一に、信徒発見

から150年を迎える長崎教区が歴史を振り返り、イザベリナゆかりが、パードレ(神父)に会えるなら殺されてもいいとまで考え、浦上から大浦まで出かけて、プチジャン神父との出会いを果たしたその信仰を礎とし、これから長崎教区民の1人としてどう生きてい

くかを考えること。第二に、人間の力には限界があり、また誤り得る可能性を認め神の力を求めることによって、より力強くより正しい信仰の道を歩く方向へ舵を切ることに。そのために教区シノドスのための祈り(2011年11月27日付)が始まりました。

現在皆さま方にアンケートへの協力を願っていると。第三に、信徒、修道者、司祭、司教が共に一つになるために考えようとするところにある。まず、多くのの方の意見に耳を傾けること、つまり対話は相手の話しに耳を傾けることから始まることを意味しています。

小教区で話されたことをシノドス事務局に集め(4月末日までに提出)それを集計して、再び教区評議会(小教区評議会も含む)で検討していくよう計画されています。

ご先祖に心より感謝を・・・

材石 治明

長崎本店 長崎市城栄町 13-1 電話 (095) 846-3598
大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8488

ペト口岐部と 187 殉教者列福式記念墓地・高見三明大司教祝福

カトリック長崎中央墓園

所在地：長崎市田中町 3540 番地 6〜7 既存道名：中尾木場(木場峠付近)

開発総面積：2648.66 m² 付帯設備：照明、水道、管理棟

自然の中で故人と静かに語りあえる天の門

(区画/規格：1.5m×2.0m・3.0m) 墓誌1区画(横・縦・高) 160万円 (内・永代使用料20万円) 月額2万円より分割可能 ◆自由区画もあり
管理費(10年分) 6万円

(納骨堂式) 納骨堂式1基(3段) 70万円 (内・永代使用料20万円) 管理費(10年分) 3万円

26台以上完備 トイレ・給水設備 完備 十字架墓 完備 びん・スチール 完備

墓地管理委員会

〒850-0055 長崎市中町 1-13 カトリック中町教会内 代表 主任司祭 久志 利津男
TEL 095-823-2484 FAX 095-823-2486

問い合わせ

有限会社 長崎鉱業商事(石材部 鉱業石材)
〒850-0066 長崎市大浜 650-111 TEL 095-834-4910 FAX 095-834-4912

東日本大震災 3・11 浦上教会で合同祈祷集会



3月11日16時から、カトリック長崎大司教区と長崎市内プロテスタント諸教会は、「東日本大震災一周年にあたり追悼と再生を願う合同祈祷集会」を浦上教会で行った。高見三明大司教主司式、カトリック、聖公会司祭団とプロテスタント牧師団の共同司式のもと、共催した長崎県宗教者懇話会(会長野下千年師)の神道・仏教の代表者らも参列し、宗教宗派を超えて約1200人が祈った。

長崎バプテスト教会の友納靖史主任牧師は説教の中で、「被災地から遠いこの長崎に住む私たちに何ができるのでしょうか」と問い掛け、悲惨な災害を体験した方々の魂の痛みがどれほどであるか(原爆が落ちた)歴史を通して長崎の痛みをわずかもでも知る者として祈ることの大切さを説いた。奉献では、元フオークシンガーで現在ゴスペル歌手の本田路津子さんによる献歌、子供たちの祈りの花束、献花などがあり、共同祈願がささげられた。

開祭に先立ち、聖堂前方に設置されたスクリーンには震災発生直後からの映像が映し出され、ボランティアを体験した長崎純心大学の濱田美由紀さんによる発表もあった。

大槌ベースキャンでも 追悼ミサ行われる

この日、長崎教会管区のボランティア拠点大槌ベースキャン(岩手県上閉伊郡大槌町)でも19時から古木眞理一神父司式による追悼ミサが、各小教区で折れるようにと仙台教区がつくった典礼式文にそって行われた。同ベースを訪れていたボランティアから30人近くがミサに参列し、祈った。

大槌町では町内の会場で3月11日に遺族の方々が、翌12日に一般の方が参列して式典が行われ、大震災からの1年をそれぞれの思いのうちに過ごした。

信仰養成講座修了式

3月4日、教区生涯養成委員会は2011年度の信仰養成講座修了式をカトリックセンターで行った。修了者は、高見三明大司教からお祝いとお励ましの言葉を授け、一人一人、要理教師2級資格証書を授与された。修了者は次の6人。

浦業奈(同) 太田和昭(稲佐教会) 太田美代子(同) 藤村栄三郎(中町教会) マリア 馬込チヨノ修道女 (お告げのマリア修道会)



2月6日、佐世保記念病院にて帰天。87歳。佐世保市黒島町で生まれ、1936年(昭和11)黒島修道院に入会し、主に地域での保育事業に長年奉仕した。晩年は、教会に、修道院での病人のお世話に奉仕したが、2004年(平成16)ごろから病を得て、病床での祈りのうちに日々を過ごされた。共同体では、持ち前の明るさで温かい雰囲気を出していた。葬儀ミサ・告別式は、2月8日、黒島教会にて行われた。

平戸地区合同堅信式

平戸地区は2月19日平戸ザビエル記念教会で高見三明大司教司式のもと合同堅信式を行い、受堅者の家族、代父母、一般信徒も含めて約1200人が見守った。



5小教区の中学生42人、成人8人の計50人が「堅信の秘跡」を授かった。大司教は、「分からないことがまだたくさんあると思います。これからも神さまのことを勉強してほしい。一生、神さまのことを学んでいくことにつながります」と前置きし、堅信の秘跡である、洗礼のお恵みを強め固めることの意味、キリストの証人とはどういうことであるかということ、堅信式後の感謝式で

受堅者代表の畑原琢磨さん(上神崎教会、中学2年)は、「神父さまからクラブや塾と教会のけいこ、どちらを優先させるのか、両立させるとかいうことではなく、一体である」と語り、

「結婚」をテーマに 青年黙想会 (大司教館)

教区青少年委員会は3月11日、長崎大司教館で青年を対象とした黙想会を行った。「結婚」をテーマに、工藤秀晃師(同委員会委員長、写真)らの指導のもと、各地から集まった約60人の若者が、カトリック教会における「婚姻の秘跡」を共に学んだ。結婚とは、一組の男女が互いに全生涯にわたる生活共同体をつくるための契約として、子女の出生・養育、夫婦が助け合いうことを目的としている。婚姻の秘跡の執行者は、何より神の前で愛の誓いを立てる当事者の2人であり、与えられた大切な秘跡であることを学んだ。参加者の中には、近々、挙式をあげるというカップルの姿もあり、小グループで行った分かち合いでは、「結婚」というものが大きな責任が伴うことなのだとそれぞれが実感していた様子で、将来の自分たちの幸せを見据えた活発な発言、意見が交わされ、良い勉強の機会となった。

歩くながさき巡礼

巡礼とは歩く道。実際に歩いてみてほしい。この2月と3月、長崎巡礼センターが奈留島・久賀島(2月25日・26日)黒島(3月4日)大村(3月20日)を巡る「歩くながさき巡礼」企画を実施した。3つのコースに延べ165人が参加、全員が完歩を果たした。



後日、他県の参加者から「地元の新聞に久賀島の記事が載っていて、先日歩いた巡礼のことを思い出して、うれしくなった」といったお礼の手紙が寄せられたとか。

関係者は、「歩く」と、心に響くものは歩いた分だけ重くなります」と、歩くことによって得られる感動を語った。

何であるかも分かってくると思うので、今日の日を忘れずに頑張ります」と決意の言葉を述べた。

北松炭田の開発による石炭産業の隆盛と人口増加によって、1952年(昭和27)現在の地に教会が建立されて一時期小教区として独立したが、炭鉱の閉山で信者も激減し、1970年(昭和45)4月に平戸口教会の巡回教会となった。

現在の教会は2006年(平成18)3月に落成祝別されたもので、建物にはバリアフリーで多目的トイレ、2階の倉庫には荷物揚げ用電気トローリを設け、天井は高く内陣は8畳以上、その関係で屋根の形態に特徴がある。

わたしたちの先祖は1897年(明治30)ごろ

平戸口小教区の巡回である江迎教会は経済世帯30戸の小さい教会である

黒島からの移住で始まった共同体

黒島から町内の根引地区に移住してきたことにより、教会共同体が始まった。しかし、当時の教区編成により、主教会であった田平教会から、西木場教会へ、西木場教会から潜竜教会へと変更を余儀なくされ、変更後もそれぞれの巡回教会建設などに伴い9つの聖堂建設に協力してきたという経緯があるようだ。少しでも近くの教会を主教会に」との思いやりからのことだったと思われる。しかし、信者として

な集いで18坪の聖堂から始まった。その後信徒数の増加により、終戦後に2代目教会を大加勢地区の高台へ移転した。3代目となる現教会は、1991年(平成3)に現地へ移転新築され、ツツジの名所である長串山のすぐ麓に位置する。

初代教会(当時は加勢教会)は昭和の初期この地の炭鉱従業員の小さな集いで18坪の聖堂から始まった。その後信徒数の増加により、終戦後に2代目教会を大加勢地区の高台へ移転した。3代目となる現教会は、1991年(平成3)に現地へ移転新築され、ツツジの名所である長串山のすぐ麓に位置する。



地区は旧北松4町と広域だが、よくまとまった教会で、壮年の十八(とうはち)会をはじめ婦人会を中心に教会行事を行い、隣接する聖母幼稚園のイエスのカリタス修道女会のシスターの協力により教会学校も行っている。

歴史も浅くこれからさらに成長していかねばならない教会だが、この建物をこれからの若い人々が信仰の場として末永く守り続けてくれることを願っている。(潜竜教会代表・古川 悟)

初代教会(当時は加勢教会)は昭和の初期この地の炭鉱従業員の小さな集いで18坪の聖堂から始まった。その後信徒数の増加により、終戦後に2代目教会を大加勢地区の高台へ移転した。3代目となる現教会は、1991年(平成3)に現地へ移転新築され、ツツジの名所である長串山のすぐ麓に位置する。

信徒数は安定して推移しているが、児童数は減少傾向にある。ミサは土曜日の夜に行われ、ほとんどの日は聖堂が信徒であふれて手狭なほどである。最近では、墓地の整備や自家発電による空調設備の整備など、祈りの環境は以前とは比較にならないほど向上した。ちょうど、この記事を皆さんがお読みになるころ、近くの長串山ではツツジが見頃を迎えている。ツツジ見物がでたら大加勢教会へ足を運んでみてはいかがだろうか。(大加勢教会・吉浦正利)

平戸口小教区 人口増加で建立された

巡回教会めぐり

黒島からの移住で始まった共同体

黒島からの移住で始まった共同体

黒島からの移住で始まった共同体

第46回「世界広報の日」(5月13日)

広報の日の集い

テーマ 沈黙と言葉

日時 2012年5月26日(土) 13時30分~16時(開場13時)

場所 カトリックセンター 〒852-8113 長崎市長野町10-34

内容 ①教皇ベネディクト16世メッセージの解説(高見三明大司教) ②広報の現場から読む教皇メッセージ(下宿英知師)

※参加無料。どなたでも参加可。

主催 聖パウロ修道会、聖パウロ女子修道会、師イエズス修道女会

問合先 サンパウロ(担当 徳田隆仁修道士) 〒160-0004 東京都新宿区四谷1-21-9 TEL03-3357-7651 FAX03-3357-7652

「親子で祈る」研修会開催 信仰教育委(長崎南地区)

教区信仰教育委員会(中濱繁喜委員長)の長崎南地区はこの1月から3月にかけて、「親子で祈る」をテーマに13小教区を3つのグループに分けて研修会を開催した。



「お祈りって何だろう?」「親子で祈りを考えてみよう」と、南地区担当司祭の山浦義

春師の指導のもと、1月29日木鉢教会、2月19日中町教会、3月4日香焼

の和やかな雰囲気の中で学びを深めた。

参加した子供たちは、皆真剣なまなざしで山浦神父の話を聴き、自分たちでつくったお祈りを「祈りのカード」に書き、祭壇に奉納。そのお祈りは各家庭に持ち帰って毎日祈ろうと約束し、閉会した。

この研修会は、信仰教育委員会によるアンケートで、家庭での祈りが不足している中でのように祈ればよいのか分からないのではといった意見から行われたもの。

一粒の麦の会、フィリピンを訪問 報告・林田健治(一粒の麦の会代表)



29年前からフィリピンの学生に奨学金の支援活動を行っている一粒の麦の会は、これまでに卒業した学生と現在就学中の

学生に会うために、世話人(同会スタッフ)4人で昨年12月末から1月にかけてフィリピンを訪問した。

愛徳カルメル修道会が仲介し、一粒の麦の会が支援しているマニラでは、鉄道沿いのアパートに2人の学生とその家族を訪問。一家4人、5人で4畳程度の1間の部屋で生活している彼ら

の苦労は察することはできたが、明るい笑顔も印象的だった。それでも勉学の意欲に満ち、良い仕事につきその家族を幸せにしたい望みが伝わってきた。

その後、修道院の食堂に移動して、彼ら2人と今春から援助を開始する予定の1人と面談をし、彼らの将来と現在の勉学の現状を聞かせてもらった。またバナイ島イロイロ市では、当会の奨学生では2人目で10年前に叙階されたデニス神父(現在は神学校で指導)と同事の仲介者ロドリゲス氏に会った。そして、神学校の食堂で、1年後には

叙階する予定のマク神学生(午後には故郷のお母さんとも会えた)や既に卒業して病院などに勤めている卒業生など数人にも会い、現在の生活や今後の予定、要望を聞いた。

卒業を得たが、海外で働いている者もいるし、ミランダナオ島など渡航が危険な場所もあり、全員には会えず、確認もとれなかった。しかし、努力した者はそれなりの結果が得られていると実感し、今後賛同者の拡充に努め、1人でも多くの学生を援助したい望みが膨らんだ。さらに来年、3人目の司祭叙階が実現する時は、「必ず式には参列します」と約束できたことは、わたしたちにとって大きな励みになった。

婦人会 O Gの集い 大司教館で開催



3月10日、婦人会OGの集いが長崎大司教館で開催された。

集いは教区連合婦人会の元会長らが各期の役員や地区、小教区の元会長らに参加を呼び掛け、さらに婦人会活動を通じて知り合った仲間へと輪を広げ、長崎3地区を中心に上五島、佐世保、大村な

ど25の教会から約1000人が参加した。

内容は、「信仰生活を直そう」をテーマにした高見三司教の講話と、大槌ベースキャンプ

「東日本大震災被災地を支援する、長崎教会管区のボランティア拠点」に関する古木真理一神父からの説明、またボランティア参加者による体験報告があった。その後、11のグループに分かれ

て「今、私が思うこと、できること」のテーマで、高見大司教と大山繁師(教区連合婦人会指導司祭)も交え、分かち合いを行った。

役員を終えても家庭の中で、妻、母、祖母、カトリック婦人として自分ができることをあらためて考える機会となり、仲間同士の絆をさらに深める、有意義な時間を過ごした。

「神の言葉を聴く良い機会になっていますか」これまで聖書を読む機会が少なかったが、ここ数年の聖書愛読運動への参加によって神のみ言葉を聴く体験ができた。聖書の意味を考え、熟読し日々の生活に生かせるようにしたい。義務的に取り組んでいるように感じる。録音で聖書の言葉を聴き、何か心静かになる。1回で読む量が長いと思うので、親しむというよりは正直なところ嫌がっているような気がする。

「神の言葉を聴く良い機会になっていますか」これまでも聖書を読む機会が少なかったが、ここ数年の聖書愛読運動への参加によって神のみ言葉を聴く体験ができた。聖書の意味を考え、熟読し日々の生活に生かせるようにしたい。義務的に取り組んでいるように感じる。録音で聖書の言葉を聴き、何か心静かになる。1回で読む量が長いと思うので、親しむというよりは正直なところ嫌がっているような気がする。

「来年度も続けたいですか」

「はい」50教会、「いいえ」15教会、「分からない」5教会。理由としては、「聖書に親しむには続けることが大事」「マニラ化している」「シノドスとの両立は大変」という意見がある。などが挙げられている。

「オの旗印」に手を置いて「わたしとわたしのすべては、まったくあなたのものです」と女王であるマリアさまに個人的な誓約を行い、集団的にも誓約をし、この1年も教会と周りの人々に奉仕を続ける決心をした。

式の後には信徒会館に会場を移し、手作りのさくら餅などをいただいた後、定例集会を開催。全国の管理機関の活動報告や長崎レジアの戸外行事として、広島巡礼を開催するなど決議が行われた。今後教会と特に病気の方々への祈りと行動による奉仕が期待されている。

「イエスは言われた。『はっきり言っておく。わたしのためまた福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子供、畑を捨てた者はだれでも、今この世で、迫害も受けるが、家、兄弟、姉妹、母、子供、畑も百倍受け、後の世では永遠の命を受ける。しかし、先にいる多くの者が後に、後にいる多くの者が先になる。』」(マルコ10章29-31節)

「復活祭を迎え、またヨセフ松永正勝神父さまのご逝去は、昨年の復活祭の翌日のこと。しかし、若い司祭の葬

儀は、やはり、心がふさぎます。この身のことであれば、別に驚きもしません。しかし、若く、これからを属望される神父さま

は、1985年8月12日。今からもう27年前のこと。

司祭となつて、わずか5カ月足らず。六方の浜

「まつばらこはんにて」カット・伊藤莉来さん(南山小・新3年生)

果たして、順番通りにはいかず、結局、あの日、「順番通りに逝こうで

「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」(マタイ24章35節)。

「神の言葉を聴く良い機会になっていますか」これまで聖書を読む機会が少なかったが、ここ数年の聖書愛読運動への参加によって神のみ言葉を聴く体験ができた。聖書の意味を考え、熟読し日々の生活に生かせるようにしたい。義務的に取り組んでいるように感じる。録音で聖書の言葉を聴き、何か心静かになる。1回で読む量が長いと思うので、親しむというよりは正直なところ嫌がっているような気がする。

「神の言葉を聴く良い機会になっていますか」これまで聖書を読む機会が少なかったが、ここ数年の聖書愛読運動への参加によって神のみ言葉を聴く体験ができた。聖書の意味を考え、熟読し日々の生活に生かせるようにしたい。義務的に取り組んでいるように感じる。録音で聖書の言葉を聴き、何か心静かになる。1回で読む量が長いと思うので、親しむというよりは正直なところ嫌がっているような気がする。

「来年度も続けたいですか」

「はい」50教会、「いいえ」15教会、「分からない」5教会。理由としては、「聖書に親しむには続けることが大事」「マニラ化している」「シノドスとの両立は大変」という意見がある。などが挙げられている。

「オの旗印」に手を置いて「わたしとわたしのすべては、まったくあなたのものです」と女王であるマリアさまに個人的な誓約を行い、集団的にも誓約をし、この1年も教会と周りの人々に奉仕を続ける決心をした。

式の後には信徒会館に会場を移し、手作りのさくら餅などをいただいた後、定例集会を開催。全国の管理機関の活動報告や長崎レジアの戸外行事として、広島巡礼を開催するなど決議が行われた。今後教会と特に病気の方々への祈りと行動による奉仕が期待されている。

みことばにふれて

岩崎康彦神父
(福岡県・今村教会)



「まつばらこはんにて」カット・伊藤莉来さん(南山小・新3年生)

果たして、順番通りにはいかず、結局、あの日、「順番通りに逝こうで

「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」(マタイ24章35節)。

「神の言葉を聴く良い機会になっていますか」これまで聖書を読む機会が少なかったが、ここ数年の聖書愛読運動への参加によって神のみ言葉を聴く体験ができた。聖書の意味を考え、熟読し日々の生活に生かせるようにしたい。義務的に取り組んでいるように感じる。録音で聖書の言葉を聴き、何か心静かになる。1回で読む量が長いと思うので、親しむというよりは正直なところ嫌がっているような気がする。

「神の言葉を聴く良い機会になっていますか」これまで聖書を読む機会が少なかったが、ここ数年の聖書愛読運動への参加によって神のみ言葉を聴く体験ができた。聖書の意味を考え、熟読し日々の生活に生かせるようにしたい。義務的に取り組んでいるように感じる。録音で聖書の言葉を聴き、何か心静かになる。1回で読む量が長いと思うので、親しむというよりは正直なところ嫌がっているような気がする。

「神の言葉を聴く良い機会になっていますか」これまで聖書を読む機会が少なかったが、ここ数年の聖書愛読運動への参加によって神のみ言葉を聴く体験ができた。聖書の意味を考え、熟読し日々の生活に生かせるようにしたい。義務的に取り組んでいるように感じる。録音で聖書の言葉を聴き、何か心静かになる。1回で読む量が長いと思うので、親しむというよりは正直なところ嫌がっているような気がする。

「神の言葉を聴く良い機会になっていますか」これまで聖書を読む機会が少なかったが、ここ数年の聖書愛読運動への参加によって神のみ言葉を聴く体験ができた。聖書の意味を考え、熟読し日々の生活に生かせるようにしたい。義務的に取り組んでいるように感じる。録音で聖書の言葉を聴き、何か心静かになる。1回で読む量が長いと思うので、親しむというよりは正直なところ嫌がっているような気がする。

「来年度も続けたいですか」

「はい」50教会、「いいえ」15教会、「分からない」5教会。理由としては、「聖書に親しむには続けることが大事」「マニラ化している」「シノドスとの両立は大変」という意見がある。などが挙げられている。

「オの旗印」に手を置いて「わたしとわたしのすべては、まったくあなたのものです」と女王であるマリアさまに個人的な誓約を行い、集団的にも誓約をし、この1年も教会と周りの人々に奉仕を続ける決心をした。

式の後には信徒会館に会場を移し、手作りのさくら餅などをいただいた後、定例集会を開催。全国の管理機関の活動報告や長崎レジアの戸外行事として、広島巡礼を開催するなど決議が行われた。今後教会と特に病気の方々への祈りと行動による奉仕が期待されている。

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
(有) 栄光式典社
代表取締役 ヨハネ 西村 勇二
長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011
24時間営業 FAX(095)843-9896

当社オリジナル商品
一筆箋(教会編) 定価350円(税込)
各種印刷物のお見積りも無料です。お気軽にご相談下さい。
九州印刷株式会社
代表取締役社長 トマス 川原 保夫
〒852-8103 長崎市緑町4-5
TEL(095)846-6844 FAX(095)846-6845

墓地・納骨堂 分譲中
高尾・本原・石神・江平・坂本 他
現地ご案内致します

なが さき せき ちょう
長崎石彫
ヨゼフ 岩永 博明
長崎市梁川町6-17 岩永ビル
☎(095)862-2469

商いをしていた。支援が無事に実を結び、活躍している人々を見るのは本当にうれしかった。
創立から約1000人の卒業を得たが、海外で働いている者もいるし、ミランダナオ島など渡航が危険な場所もあり、全員には会えず、確認もとれなかった。しかし、努力した者はそれなりの結果が得られていると実感し、今後賛同者の拡充に努め、1人でも多くの学生を援助したい望みが膨らんだ。さらに来年、3人目の司祭叙階が実現する時は、「必ず式には参列します」と約束できたことは、わたしたちにとって大きな励みになった。